

主体的に学習に取り組む態度を評価する単元構想 リフレクションシート（商業科「簿記」）

単元名： 1年生 第25章 第1節 「決算整理のまとめ」（全3時間）

単元構想と実践を通して評価改善・授業改善や授業デザインの方策を提案する視点に立って振り返りを行う。

| 単元構想のリフレクション（研究仮説と手だての有効性の検証） |  |
|-------------------------------|--|
| 単元を通した構想の振り返り（仮説の検証）          | <p>なぜ、決算は必要なのかを調べ、自分の言葉でプリントにまとめさせる活動では、実際のビジネスにおいて簿記会計が大切だということを知り、生徒の学ぶ意欲も向上した。</p> <p>また、ペアワークで互いに仕訳の説明をすることにより、仕訳をパターンで覚えていた生徒も、何のために何をやっているかを考えることが大切であると気づき、決算整理事項を正しい財務諸表を作成するために必要な一連の処理として捉えることができた。</p> <p>簿記を学ぶ意義やそれぞれの処理の意味を理解することで、簿記への興味・関心を高めることができた。</p> |
| 主体的な学びを評価する手だての有効性の検証         | <p>ワークシートのリフレクション欄を充実させることで、自ら決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだすことができ、生徒の思考プロセスを効果的に評価することができた。</p> <p>また、小テストの振り返りでは、自ら学びを調整しようとする力を測ることができた。</p>  |
| 対話的な学びを評価する手だての有効性の検証         | <p>ループリックによるペアワークの行動観察及びワークシートの自己・他者評価、考察欄から生徒の取組状況を評価することができた。</p> <p>また、Teamsのチャット機能を利用することで、人前で話すことが苦手な生徒も自分の考えを他者に伝えやすくなった。Teamsの投稿欄には、授業終了後も発言が残るため生徒の活動を把握しやすい。</p>  |
| 深い学びを評価する手だての有効性の検証           | <p>ワークシートのリフレクション欄を充実させることで、生徒に考える機会を与えることができ、その記述内容から学びに向かう力も把握できた。</p> <p>行動観察のみでなく、Teamsのチャット機能も有効であることが分かった。</p>   |

単元構想の実践前と実践後において、生徒を3名程度抽出し、単元を通した学習への取組の様子や変容を比較し分析する。

| 抽出生徒の変容 |   |   |
|---------|---|---|
| 生徒      | 実践前の様子  | 単元終了時の様子  |
| A       | <ul style="list-style-type: none"> <li>簿記に対し、苦手意識が強い。何のために簿記の学習をしているのかを理解できていないため、興味・関心も低い。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットでも公表されている有名企業の財務諸表を見て、簿記が経済社会に必要な知識だと分かり、学ぶ意欲が向上した様子であった。</li> </ul>        |
| B       | <ul style="list-style-type: none"> <li>成績はよいが、それぞれの取引の処理をパターンで覚えているため、人に教えることは苦手である。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>他者に説明する活動を通して、課題を協働して解決していく力やそれぞれの処理の意味や意義を深く理解した様子であった。</li> </ul>                |
| C       | <ul style="list-style-type: none"> <li>おとなしく、授業中に発言をすることは苦手としているが、授業後に個別に質問をすることが多く、簿記を本質的に理解しようとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアの生徒から大変分かりやすく理解が深まったと評価を受け、自信がついたようである。今後の授業でもTeamsのチャット機能の活用を期待していた。</li> </ul> |

| 実践を通しての課題  |
|--|
| <p>今回の実践では、タブレット端末の活用を心掛けた。Teamsのチャット機能の利用は、チャットの内容が授業後も残るため学習に活用しやすいという意見や新鮮で楽しかったという感想が多く、生徒から好評であった。教員側も、生徒が主体的に学習に取り組む態度や思考のプロセス、理解度などを把握することができるため、評価の効果的な手だての一つであることが分かった。Teamsを活用した授業展開や評価方法を研究することが今後の課題である。</p> |